

巻頭言

2025 年行事予定

- 3月15日(土) 2024年度第6回理事会
- 4月～5月 2025年度第1回理事会
- 5月23日(金) 日本臨床検査専門医会
～5月24日(土) 第4回年次大会(札幌)
第2回理事会
2025年度定時社員総会
第3回理事会
- 5月30日(金) 第4回年次大会オンデマ
～6月15日(日) ンド配信
- 6月3日(火) 2025年度教育セミナー
～6月30日(月) (講義資料配布+講義動画
オンデマンド配信)
- 7月18日(金) 振興セミナー(御茶ノ水)
7月～8月 第4回理事会
- 8月28日(木) 第72回日本臨床検査医学
～8月31日(日) 会学術集会(幕張)
- 8月28日(木) 第5回理事会、2025年度
臨時社員総会・講演会・
共催セミナー
- 11月11日(火) 臨床検査の日
全国検査と健康展(11月～12月)
11月11日つながりイベント

【目次】

p.1	巻頭言
p.2	事務局からのお知らせ、日本臨床検査 専門医会臨時社員総会報告、2024年 度臨時総会講演会報告、第71回一般 社団法人日本臨床検査医学会学術集会 関連行事報告
p.3	2024年「全国検査と健康展」報告、2024 年「11月11日つながりの日」活動報告、 2025年度 第4回年次大会、2025年度 教育セミナー開催予告、会員システム 稼働のお知らせ、2024年度会費振込の お願い
p.4	住所変更・所属変更に伴う事務局への 通知について、会員の声
p.5	会員の声
p.6	会員の声、編集後記



りんしょう犬さん LINE スタンプの検索方法
LINE→ウォレット→スタンプショップ

「りんしょう犬さん」を検索
検索結果→「クリエイターズ」を選択

りんしょう犬さんスタンプ
購入サイト

<https://store.line.me/stickershop/product/8679516>

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を
社会に伝える活動に使用させていただきます

第4回年次大会は2025年5月23～24日に北海道札幌市で開催します！

北海道医療大学 医療技術学部
大会長 幸村 近

本稿で第4回年次大会を紹介する機会をいただき感謝しております。北海道での専門医会の大会は11年ぶり、第24回春季大会が2014年に北大(清水力会長)で開かれて以来です。それ以前と言うと、2007年の旭川医大(伊藤喜久会長)、2000年の札幌医大(渡辺直樹会長)の大会がありました。さらに遡って、1994年に開かれた第4回春季大会は札幌医大の黒川一郎教授が大会長でした。このとき私は旭川医大の臨床検査医学に赴任したばかりで、当時の池田久實教授に札幌で同業者の会があるから行くぞと言われ、勝手もわからないまま参加したのです。内容はもう覚えていませんが、何かアットホームな雰囲気を感じたことは確かです。

旭川医大での研究の仕事は捗りませんでした、学生教育などはそれなりに充実して、臨床検査医学会の会員歴も専門医受験資格に到達しました。日大や昭和医大でのセミナーに参加して勉強し、1999年の夏に専門医試験を受けました。受験までの過程で北大の松野一彦先生には大変お世話になりました。そもそも専門医になるよう勧めて下さったのも松野先生でした。また北海道出身の水口國雄先生には学会のたびに声をかけていただいて心強く感じたものです。その後大学を離れ、循環器内科医として過ごしましたが、行く先々の病院で検査部の仕事を任されるようになり、専門医会との付き合いも細々と続けていました。

2018年に今の職場に赴任し、臨床検査技師養成の学部・学科新設に携わってからは、コロナ禍もあって慌ただしい日々でした。何とか軌道に乗って学外の仕事も引き受けられるようになりました。まずは臨床検査同学院に参加するようになり、その会合の席で本会の谷理事長に久しぶりに北海道で専門医会の大会を開いてくれないかと声をかけられました。身に余ることと躊躇しましたが、年次大会では大会長講演はなく、コーディネータが役割です。お引き受けし、講演は北海道の仲間にも助けてもらうことにしました。

大会2日間に並べた講演は多岐にわたっているので、どの分野の専門の方でも必ず勉強になるテーマが含まれていると思います。母校旭川医大の西川祐司学長は同期で、優秀な病理学者ですので、札幌厚生病院の市原真先生とともに病理関連のテーマで講演してもらいます。私の出身医局である旭川医大第一内科(内科学講座循環器・腎臓内科学分野)からは新任の中川直樹教授が腎臓病について話します。そして所属する北海道医療大学からは竹生礼子教授に地域医療・在宅医療の共通講習講演をお願いしました。このほか臨床検査専門医の紀野修一先生と生田克哉先生には輸血検査を、赤坂和美先生には画像検査を、最後に札幌医大の高橋聡教授と虎の門病院の荒岡秀樹先生には感染対策(共通講習)を担当していただきます。

大量観客動員のコンサートがあると札幌市内市外のホテルや航空機の予約が埋まってしまうのは全国ニュースになるほどです。重ならないよう祈るしかありませんが、可能な限り早く予約していただきますようお願いいたします。ちょうどライラック祭りが開かれている春の札幌にぜひお越しください。心よりお待ちしております。

表 1 2024 年度補正予算
(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

(単位:円)		2024年度補正予算	2024年度予算	増減	2024年度補正予算備考
収入側	会費	5,400,000	5,400,000	0	
	助成金・寄付金	3,100,000	3,100,000	0	
	小計	8,500,000	8,500,000	0	
	広告収入	160,000	160,000	0	
	教育セミナー参加費	500,000	500,000	0	
	生涯教育講演会参加費	0	500,000	▲ 500,000	年次大会費に含めて計上
	医食セミナー参加費	100,000	100,000	0	
	年次大会収入	3,529,000	4,090,000	▲ 561,000	生涯教育講演会参加費を含めたため、実質は▲1,061,000
	利息	1,000	1,000	0	
	雑収入	11,000	11,000	0	
小計	4,301,000	5,362,000	▲ 1,061,000		
入金合計	12,801,000	13,862,000	▲ 1,061,000		
支出側	事務所維持費	1,832,000	1,832,000	0	
	人件費	1,930,000	1,930,000	0	
	設備費	8,000	8,000	0	
	電話・FAX使用料	54,000	54,000	0	
	通信費(事務局)	200,000	200,000	0	
	印刷料	462,000	462,000	0	
	事務局雑費	64,000	64,000	0	
	小計	4,550,000	4,550,000	0	
	印刷代	1,020,000	1,020,000	0	
	複製印刷代	0	0	0	
通信費	870,000	870,000	0		
年次大会費	5,060,817	4,590,000	470,817	生涯教育講演会費用(195,473)含む	
臨床検査振興セミナー費	620,000	620,000	0		
教育研修事業費	360,000	430,000	▲ 70,000	生涯教育講演会予算分を振替	
会議費	400,000	400,000	0		
交通費	80,000	80,000	0		
宿泊費	0	0	0		
印刷料	40,000	40,000	0		
専門医会ネットワーク維持費	0	0	0		
HP維持費	396,000	396,000	0		
会員管理委託費	132,000	132,000	0		
広報ネットワーク委員会関連費用	50,000	50,000	0		
JCCLS会費	50,000	50,000	0		
WASPALM会費	64,000	64,000	0		
臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0		
内保連	200,000	200,000	0		
雑費	0	0	0		
小計	9,642,817	9,242,000	400,817		
法人税等	70,000	70,000	0		
出金合計	14,262,817	13,862,000	400,817		
収支	▲ 1,461,817	0	▲ 1,461,817		

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2025 年 1 月 25 日現在数 632 名、専門医 539 名

【新入会員】(敬称略)

曾根原 弘樹：千葉大学医学部附属病院

【所属・その他変更】(敬称略)

伊藤 伊知郎：旧 長野赤十字病院病理部

新 藤枝市立総合病院病理診断科

【退会会員】(敬称略)

出原 賢治：佐賀大学医学部分子生命科学講座

木村 雅友：橋本市市民病院病理診断科

谷口 浩和：杏林大学医学部付属杉並病院

石津 智子：筑波大学医学医療系循環器内科

【日本臨床検査専門医会臨時社員総会報告】

2024 年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時社員総会は 2024 年 11 月 28 日(木) グランキューブ大阪「会議室 1003」にて開催されました。現地参加者 61 名および委任状 380 通をもって、定款 17 条の定める定足数を満たしたため同会は成立しました。審議に先立ち、中原一彦名誉会員のご逝去(令和 6 年 6 月)を悼み黙祷が行われました。

< 審議事項 >

第一号議案：議事録署名人の選任

下記 2 名が推薦されました。

尾崎 敬先生 幸村 近先生

第二号議案：社員総会資料の電子提供および電磁的な委任状提出に係る定款の変更について

本会が新しく導入した会員システムでは、システム内会員専用掲示板において社員総会資料を提供すること、ならびに社員総会時の委任状提出を電磁的方法により提出することが可能になることが説明されました。その運用には、定款の一部変更が必要であり、定款第 14 条(招集)に第 4 項「この法人は、社員総会の招集に際し、社員総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとる」を追加、第 17 条(議決)「書面をもって評決を委任した」を「書面または電磁的方法をもって評決を委任した」に変更、の 2 点を提案しました。

第三号議案：2025 年度名誉会員・有功会員の推薦について

名誉会員：一山 智 先生 松尾 収二 先生

村上 純子 先生 米川 修 先生

有功会員：太田 善夫 先生 澤田 達男 先生

杉江 茂幸 先生 鷹野 壽代 先生

高橋 玲 先生 辻本 正彦 先生

中村 栄男 先生 信岡 祐彦 先生

川杉 和夫 先生

第一号～第三号議案は承認されました。

なお、第二号議案は定款第 3 章 17 条 2 項に該当しますが、臨時社員総会開催日の本会総議決権数 599 名に対し、出席者(委任状含む)が 2/3 を超えており、決議のための定数を満たしました。

< 報告事項 >

1. 各委員会報告

2. 2024 年度補正予算について

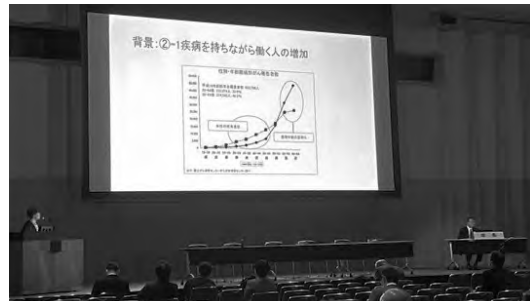
2024 年度補正予算を第 4 回理事会で承認したことを報告しました(表 1)。

3. 2025 年度年次大会について

社員総会議事録は後日ホームページに掲載されます。

【2024 年度臨時総会講演会報告】

2024 年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時社員総会に続き総会講演会が開催されました。座長は山田副理事長が務め、大阪産業保健総合支援センター保険専門職というお立場で、様々なケースに向き合われている永田庸子氏が「治療と仕事の両立支援～産業保健現場の立場から」というテーマで、両立支援の動向の解説から始まり、産業保健の現場からみた実際の様子など、貴重なご講演をしてくださいました。本講演は専門医更新のための共通講習でもありました。現地では会員・医師以外の方の聴講希望もあり、オンデマンド視聴も合わせると 260 名の聴講がありました。本講演の内容は来年度発行の LabCP でも、ご紹介する予定です。



【第 71 回一般社団法人日本臨床検査医学会
学術集会関連行事報告】

第 71 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会における、本会関連行事として、日本臨床検査医学会と本会保険点数・データシステム委員会の共催により、11 月 29 日金曜日にシンポジウムが開催されました。「臨床検査医からみたゲノム医療および医療 DX への取り組みと課題」を大テーマとし、松下委員長、湯地晃一郎会員が座長を務め講演、討論会が

行われました。本講演の内容は来年度発行予定の LabCP でも、ご紹介する予定です。

【2024年「全国検査と健康展」報告】

2024年11月11日「臨床検査の日」に合わせて「全国検査と健康展（日本臨床衛生検査技師会、臨床検査振興協議会との共催）」が各都府県で開催されました。10月20日～12月7日まで、全国10会場、延べ13名の検査医がボランティアとして「検査説明・健康相談」を担当くださいました。毎年、この催しを楽しみにされている方もおられ、各地でご相談件数の増加が報告されました。ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。また、今年度は中央会場、岐阜県土岐市で、谷理事長が「メタボリックシンドロームとは」という市民向けの講演をいたしました。ご出務いただきました先生方には「参加証明書」を発行いたしました。臨床検査専門医更新1単位、専攻医「地域活動」に該当いたします。今後開催時にご協力いただける先生を募る予定です。地元もしくは近隣県で開催の際はご協力をお願いします。今年も各地技師会のご協力を得て専門医会の「のぼり旗」を会場に掲げました。



【2024年「11月11日つなぎの日」活動報告】



11月10日東京スカイツリー入口付近のソラミ広場で、民間4企業と合同で、イベントを行いました。各企業、自社PR用品を入れたグッズを配布、本会も臨床検査の普及グッズを提供いたしました。当日は、広報委員会委員医師1名および専攻医3名の先生方に会場で、本催しの主旨の説明や、配布をしていただきました。ご協力いただいた先生方、ありがとうございました。ご出務いただきました先生方には「参加証明書」を発行いたしました。臨床検査専門医更新1単位、専攻医「地域活動」に該当いたします。

【2025年度 第4回年次大会】

大会長：幸村 近（北海道医療大学医療技術学部 学部長・教授）
期 日：2025年5月23日（金）～24日（土）
会 場：アスティ45（札幌市中央区北4条西5丁目1<札幌駅直結>）
テーマ：「Up-to-date 臨床検査 北海道から発信」
公式サイト：https://gakikai-cms.com/jaclap4/ \大会HPはこちら/
上記ホームページからプログラムをご確認ください。専門医更新のための共通講習、領域講習の単位申請も複数予定しています。現地参加が困難な方のために、開催終了後オンデマンド配信（2025/5/30～2025/6/30）を予定しています。参加申し込みフォームは2月中旬に公式ホームページに開設する予定です。会場は、札幌駅直結とアクセスしやすい場所です。交通・宿泊の予約は各自で、お早目をお願いいたします。今後も情報を更新していきますのでご確認ください。連絡先：jaclap4@ml.hoku-iryo-u.ac.jp



【2025年度教育セミナー開催予告】（教育研修委員会より）

2025年度教育セミナーにつきまして、下記の通り開催を予定しております。

開催形式：講義資料配布 + 講義動画オンデマンド配信
（受講後、MCQ問題を回答いただいた方には受講証を発行いたします）

* 機構専門医研修プログラム整備基準：2. 研修方法「②臨床現場を離れた学習」(1)に該当

配信日程：2025年6月3日（火）～6月30日（月）（1ヵ月間配信いたします）

講義内容：一般臨床検査学 / 臨床化学・免疫学 / 臨床血液学 / 臨床微生物学 / 輸血学 / 遺伝子検査学 / 臨床生理学 / 臨床検査診断特性評価 / 臨床検査室管理総論・精度管理

募集期間：4月中旬～1ヵ月程度（募集期間・方法の詳細についてはホームページ上でご案内いたします）

参加費用：8,000円

注意事項：本会会員のみ受講可能です。非会員の方には申込と同時に入会申請をお願いしております。学生、初期研修生の方は非会員の方も受講可能です。

本セミナーは、臨床検査専門医に必要な知識・技術をこれから習得していこうとする方へのガイドを提供することを主な目的としております。会員の先生方のお近くに臨床検査専門医認定試験受験予定の方、臨床検査医学に興味・関心のあられる研修医・医学生の方などがいらっしゃいましたら、お声かけをお願いします。

なお、専門医資格既得者他、既に日常業務で臨床検査に携わっている方が、ブラッシュアップの目的で受講されることも歓迎いたします。

【会員システム稼働のお知らせ】

新しく会員管理システムを導入いたしました。同システムを使用し下記が可能となります。

- * 会員登録情報（所属先、連絡先、会員種別等）の確認
- * 会員登録情報の変更（所属先、連絡先等）
- * 年会費納付ならびに納付状況の確認（年次大会他セミナー参加費を含む：2025年度より）
- * 会員向け掲示板より、お知らせ・資料等の閲覧・ダウンロード
- * 社員総会資料閲覧・ダウンロード、出欠席、委任状の提出（2025年度より）

昨年12月に全会員宛にIDPWをお送りしました。登録情報、会費納付状況等ご確認ください。

URL：<https://g-ings.com/gsystem/jaclap/member/login>

もしくは、本会ホームページトップ画面、右上

会員専用 マイページログイン からログインしてください。

【2024年度会費振込のお願い】

2024年度年会費未納の会員様宛てに昨年12月、会費振込用紙を再度お送りしました。年度末（2024年3月末）が近づいておりますので、お納めいただいていない会員の方はお早めに振込みをお願いいたします。なお、2025年度年会費につきましては、2025年4月以降に、マイページからご納付いただくこととなります。改めてご案内を予定しております。

2024年度年会費：10,000円（2024年4月1日現在、70歳以上の方は5,000円）

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900
店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキユウ店)
預金種目：当座 口座番号：0020509
口座名：一般社団法人日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の納入状況が不明な先生は、マイページでご確認するか、事務局までお問い合わせください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら、必ず、会員マイページから更新してください。もしくは、事務局までお知らせ下さい。1月28日、LabCP 最新号を発送しております。お手元に届いていない場合は、ご連絡ください。

なお、本会では、JACLaP WIRE の配信を含め、セミナー開催情報等会員様への有用なお知らせを、必要に応じてメール配信しております。E-mail address のご登録がお済みでない先生は、マイページでご登録いただくか、事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局
(水・土日祝祭日は休業日)
電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110
旧)メールアドレス：senmon-i@jaclp.org
新)メールアドレス：senmon-i@jaclap.org

※ 事務局メールアドレスのドメインが変更になりました。
前アドレスでご登録をいただいている先生がいらっしゃいましたらご変更をお願いいたします。

【会員の声：次世代の臨床検査専門医】

臨床検査専門医として

慶應義塾大学医学部臨床検査医学

三ツ橋 雄之

慶應義塾大学医学部臨床検査医学の三ツ橋雄之と申します。

宜しくお願いいたします。

私は現在、大学病院の臨床検査科で臨床検査医としての診療と研究を行っていますが、実際の興味と仕事の中心は血液形態検査であり、骨髓塗抹標本の診断に主に取り組んできました。自分が当初所属していた大学の臨床検査医学教室は病理診断が中心であり、自身も病理医を目指すものと漠然と考えていましたが、内科研修のあいだに経験した血液疾患症例の末梢血および骨髓像の観察を通して塗抹標本の血液細胞形態に興味を持つようになり、そのまま血液細胞形態の世界に迷い込んでしまい、現在に至っています。病理の道には進まず、臨床検査としても非常に狭い分野に取り組んでいたこともあり、臨床検査専門医の取得も随分と遅くなってしまいました。

現在でも骨髓検査の診断を中心として仕事をしており、臨床検査に関わる医師として学問的探究心を持って細胞の観察を行っていますが、血液細胞へのそのその興味は学問的側面よりも、「細胞形態の不思議さ、美しさ」に対するものであったため、観察そのものに時間をかけてしまい、臨床検査医としてはあまり効率の良い仕事できていないのではないかと反省する部分もあります。また、血液細胞の写真にもこだわりを感じており、機会が得られた場合には、できるだけ美しく、血液細胞形態観察の素晴らしさが伝わるような写真を撮るよう心掛けています。

今回、遅まきながら日本臨床検査専門医会に入会させていただき、臨床検査専門医も取得しましたので、これまでの血液形態検査への取り組みとともに、これからは幅広い臨床検査領域で役割を果たせるよう取り組んでいきたいと考えています。慶應義塾大学病院の臨床検査科は臨床検査技師のレベルが高く、新たに関わるようになる検査分野では技師の方々に教わることばかりでなかなか役に立てない状況ではありますが、これまでより広い視野で臨床検査医としての診療と研究に取り組んでいくことができればと思っています。

現在、もう一つ積極的に取り組みたいと考えていることは「教育」です。現在でも医学部学生への講義や臨床実習、研修医への指導などには関わっていますが、学生も研修医も、臨床検査への興味や理解は薄く、限られた時間の中では臨床検査への理解を深めることも、基本的な検査手技を指導することも難しい状況となってしまっています。現在の臨床医学における臨床検査の重要性から、そのような状況を少しでも改善しなければならぬと考えますが、それだけではなく、自分が血液細胞形態の分野に進むきっかけとなったような、血液細胞を観察する楽しさを学生や研修医に伝えたい、そのような役割を果たしたいと考えています。血液形態検査は近い将来に AI に役割を明け渡すことになるのかもしれませんが、細胞形態を観察する楽しさ、形態を観察しようという取り組みこそが、AI にはできない、血液形態検査そして臨床検査の様々な領域における発展の原動力となると信じ、教育にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

臨床検査専門医を取得して

防衛医科大学校臨床検査医学講座

松永 絢乃

日本臨床検査専門医会のみなさま、初めまして。このたび検査専門医の一員に加えていただいた防衛医科大学校臨床検査医学講座 松永絢乃と申します。私は防衛医科大学校を卒業後、初期研修後同大学病院検査部で病理を専攻しました。当院では病理学は検査の一部であり、臨床検査医学にも精通すべきである、という教えが根付いており、前検査部長兼臨床検査医学講座教授であった中西邦明先生の勧めもあり、病理専門医取得後、2019 年からカリキュラム制での研修を始めました。ちょうど新制度への切り替え時でしたので、最初は手探りの状態ではありましたが、学会からの指針をもとに実習やレポート・報告書の作成、自学学習を始めました。

研修を始めてからは、新型コロナウイルス流行、大学院入学、出産等内外にさまざまな変化があり、当初の研修予定を大きく変更することになりましたが、カリキュラム制というフレキシブルな制度のおかげで規定の研修を終了することができました。防衛医大卒業生は、退職をしない限り防衛省所属の自衛官(医官)の身分になりますので、医師としてのキャリアパスが他大学の先生方と大きく異なります(基本的に2年ごとの全国異動、病院以外での自衛隊の部隊・基地や行政機関での勤務、場合により災害派遣、海外派遣に従事するなど)。近年では、自衛隊のワクチン接種会場の立ち上げや支援に従事し、様々な市民の皆様と接し貴重な体験をすることができました。出産後は比較的すぐに復帰し、ままたま育児に奮闘しながら研究や研修等を行うことになり、あまりの目まぐるしさに一部記憶がありませんが、松熊晋現教授/検査部長を始め、検査部・臨床検査医学講座の先生方、スタッフの方々にたくさんのフォローと激励をいただきました。東京大学医学部附属病院の先生方には遺伝子関連検査についてご教授いただき、深謝いたします。

受験をするにあたり、まずは専門医セミナーを受講しました。専門医セミナーは本当にありがたい講習会で、広大な範囲を

勉強する手がかりとなりました。私は直前の1回のみを受講しかできなかったのですが、前年や前々年も受けておけばよかったと非常に後悔しました。試験までの数ヶ月は膨大な量に心が折れそうになりましたが、何度でも挑戦する気持ちで受験した、という専門医セミナーの体験談のお言葉にも勇気をいただき、勉強と手技の確認をしました。試験当日は、必死にシャープペンを動かしたのはものの、特に実技の筆記の時間が足りず(受験の際は筆記の練習と、使いやすい筆記具の持参をお勧めします)、試験終了後はまた来年頑張ろう…と思っていたところ運よく合格の報告をいただき、大変安堵いたしました。

ご指導頂いた先生方、研修制度、学会の方々、もろもろに恵まれ、臨床検査専門医の一人とさせていただきますが、検査の奥行き之深さと懐の大きさを痛感し、日々研鑽を重ねていく所存です。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

腎臓内科と臨床検査の専門医として

金沢大学附属病院検査部
金沢大学大学院腎臓・リウマチ膠原病内科学
大島 恵

このたび臨床検査専門医を取得いたしました、金沢大学附属病院検査部の大島と申します。

私をはじめ臨床検査医学に興味をもったきっかけは尿沈渣です。2010年に金沢大学を卒業後、初期臨床研修を経て金沢大学附属病院旧第一内科に入局し、内科および腎臓内科の研修を始めました。当時の検査部長で腎臓内科長もされていた先生が、「尿沈渣をみられる腎臓内科医の育成」を目指しており、病棟と外来に遠心機と顕微鏡が設置され、尿沈渣を実施できる環境が整っていました。また週1回の尿沈渣鏡検日には、検査部にてその日の尿検体の中で異常のある検体数例を取り分けていただき、医師が鏡検して所見を臨床検査技師による所見と見比べることにより習熟する機会をいただきました。はじめは宇宙の様に広がる尿沈渣の世界にただ圧倒されるばかりでしたが、臨床検査技師からは細胞を見分けるコツを、指導医からは患者さんの病態に合わせて見るポイントをご指導いただき、理解が深まりました。現在も検査部のご協力をいただき尿沈渣鏡検日を設けており、専攻医から高い評価をいただいています。

このようなきっかけから臨床検査医学への魅力を感じ、2015年に日本臨床検査医学会に入会しました。また腎臓内科医として診療に従事する傍ら、新たな国民病といわれる慢性腎臓病(CKD)の克服を目指した研究に取り組みました。CKD進行の指標となる血中バイオマーカーの開発など、臨床検査に関連した研究にも多く携わりました。2018年にはオーストラリア、シドニーのジョージ国際保健研究所(V Parkovic先生、HJL Heerspink先生)に研究留学の機会をいただき、CKDの主な原疾患である2型糖尿病の大規模コホートをを用いて、金沢大学が独自に測定系を樹立した抗エリスロポエチン受容体抗体のCKD進行のバイオマーカーとしての有用性を明らかにしました。

帰国後は2021年より金沢大学附属病院検査部の管理医として従事し、腎臓領域に限らず様々な検査について身近で学ぶ機会をいただきました。管理医は、質の高い検査の提供を目指して、臨床医からの検査データの解釈問合せに対する助言や、検査の品質管理に携わり、臨床医と臨床検査技師の橋渡しの役割を担っていると考えています。また臨床検査技師の学会報告や研究に対する助言を日常業務として行っています。その過程で臨床検査医学の知識および技術の獲得の必要性を実感し、臨床検査専門医の取得を目指すようになりました。専門医受験に際しては、日本臨床検査専門医会開催の「教育セミナー」にて系統的に網羅的に学ばせていただきました。また実技試験の対策では、検体検査室、微生物検査室、生理機能検

査室、輸血部をはじめ、各部門のエキスパートの技師の方々丁寧に指導いただき、大変感謝しております。それでも試験当日はかなり緊張しましたが、試験官および面接官の先生方から励ましのお言葉をいただき幾分救われました。試験後の手応えはなく、来年はもう少し計画的に勉強しようと思っていたところに、幸いにも合格することができました。

これまでの腎臓内科および検査管理の両面から得た経験を通して、各分野の専門知識のみならず、異なる視点からの気づきや、職種や部門を超えたつながりなど、多くを学ばせていただきました。これらの学びは、今後の診療、研究、教育に貢献する強みになると確信しております。日本臨床検査専門医会会員の皆様には今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

臨床検査を勉強して良かったこと

愛媛大学医学部附属病院糖尿病内科・臨床検査医学

川村 良一

2023年度に臨床検査専門医会に入会させていただきました、愛媛大学糖尿病内科・臨床検査医学の川村良一と申します。出身は広島市、年齢は40代半ばです。私は、2003年に愛媛大学医学部を卒業し、同医局に入局しました(研修制度のなかった旧世代です)。正直に申しますと、当時は糖尿病に興味があり、臨床検査ってなんだろう?という状況でした。大学院や千葉県成田赤十字病院で内科研修を行い、その後は大学を中心に勤務し、内科専門医、糖尿病専門医を取得しました。大学院では疫学研究で有名な、九州大学久山町研究室(現、衛生・公衆衛生学分野)でも勉強させていただきました。その後も、愛媛県の地域一般住民を対象とした遺伝疫学研究である東温ゲノムスタディに従事し、遺伝子環境因子相互作用に興味をもって研究しています。遺伝疫学は、臨床医学と基礎医学の橋渡しとなる分野であり、大学院での勉強やその後の研究、臨床を通して、少しずつ臨床検査医学への興味が高まってきたように思います。

新専門医制度に変わり、当科も臨床検査専門研修プログラムの基幹施設に認定していただきました。大澤教授よりプログラムの事務局を拝命しましたが、実際には知識はゼロ、何から始めたらいなものか、全くわかりませんでした。そこで、自らが研修第一期生に登録し、少しずつ実践してみることとしました。内科、糖尿病内科専門医を有していることから、カリキュラム制で登録しました。もともと行っていた週1回の検査部カンファレンス、勉強会に加え、各分野の主任技師に講義と実習をお願いしました。研修してみて分かったことは、日常の臨床で、いかに「見ていなかった」のかということです。例えば、LDやALP高値の時に、アイソザイムを出すことすらしていませんでした。細菌、血液、輸血、生理検査等においても、出された結果、レポートを読むだけで、深く理解はしていなかったことに気が付きました。今回は、検査部として病院全体での異常値や特徴的な症例についても勉強しましたが、注意していれば、自分が担当している患者だけでも、日々多くの気づきがありました。また、臨床検査総論、精度管理やISO 15189、検体検査加算などについては、臨床検査に携わる医師として必須の知識ですが、何も知りませんでした。お恥ずかしい限りです。検査部所属の医師としての自分の役割を改めて知ることが出来、自信にもなりました。

さて、カリキュラム制であることに甘えて試験を先延ばしにしており、あっという間に5年が経過してしまいました。第二期生の先生方に追い越されそうになり、さすがにまずいと思い、2023年度の専門医試験を受験することにしました。とはいえ、近年受験した先輩もおらず、何から手をつけて良いのか分からず、途方に暮れていました。そんな中、臨床検査専門医会の2023年度教育セミナーを受講させていただきました。膨大な範囲から、重要な点、勉強しておくポイントをまとめて頂き、5月

末にして、ようやくやるべきことが見えてきました。試験まであと2ヵ月という絶望的な状況ながら、教育セミナーの資料を中心に、技師さんにも協力頂き、細菌、血液、輸血など、最低限の実技を練習させて頂きました。そしてあっという間に試験当日。試験問題はどの範囲もすごく良問で感服致しましたが、自分が得点出来るかどうかは全く別問題であり、面接では経験不足であることが早々に露呈し、絶望の中、帰宅の途につきました。不合格であっても、臨床検査医学を勉強することによって得ることが出来た幅広い知見は決して無駄ではなかったと思いつつながら。後日、奇跡的に合格を頂きました。ご指導頂きました大澤教授、大学病院の技師さん、共に勉強した医局の先生方、ならびに専門医会の先生方に感謝申し上げます。

まだようやくスタート地点に立ったところではありますが、教育では医学部学生への臨床検査医学講義、RCPCの指導等を担当しております。糖尿病内科という専門性を活かして、院内での高血糖アラートシステムの開発、他科とのコンサルテーション業務、critical valueの管理等を勉強させて頂いています。今後さらに経験を重ね、検査室の運営管理にも携わっていきたいと思います。また当科では、超高感度ELISA法の臨床検査への応用について研究をしています。内科、糖尿病内科と臨床検査医学の相乗効果を活かして、社会に貢献できるように努力していきたく思います。今後ともご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

新人臨床検査専門医が感謝と共にお伝えしたかった事

横浜市立大学附属病院臨床検査部

川崎 理加

2024年より臨床検査専門医に仲間入りをさせて頂きました横浜市立大学附属病院臨床検査部の川崎理加と申します。会員の声への投稿のお声がけをいただき、ぜひ、お伝えしたいと思うこともあり、投稿させて頂きました。

私は横浜市立大学を卒業後、血液内科医として約20年間、大学病院や市中病院で一般内科と血液内科の臨床を続けてきました。元々、血液検査や輸血など、血液内科医にとって臨床検査室は身近な場所でしたが、臨床検査専門医のいる病院で数年勤務し、検査について分からないことは検査医に相談していた経験は、検査専門医としての進路を考える時にプラスに働いたと思います。市中病院で臨床医としてそれなりに楽しく働いていましたが、COVID-19の影響で未就学児を含む家庭と仕事の両立に悩み始めた時、横浜市立大学附属病院臨床検査部の山崎悦子先生に臨床検査専門医という道についてご紹介いただきました。2020年に四十の手習いで臨床検査の専攻医となり、臨床検査の研修を開始しました。研修においては、臨床検査部の医師だけではなく、多くの技師さんに大変お世話になりました。臨床医として常に検査にお世話になっていたものの、検査その

ものについてはほとんど分かっていなかった私に、検査の基礎から実地での問題点、検査についてのこれまで知らなかった有用性まで、幅広く懇切丁寧に教えて下さいました。技師さんにとっては、時に、「臨床医は検査についてこんな事も分かっていなかったのか。」という驚きになったと思いますが・・・(今はこの経験を活かし、検査技師には常識だけれども臨床医は理解できていない事、臨床医は当たり前と思っているけれど、検査技師には通じていない事、両方の考えを理解できる事を強みに、実際の現場や学生実習で活用しています)。専攻医研修終了目前に、専攻医として初めて?の事件がありました。病院都合で当院唯一の検査専門医(=指導医)が異動になってしまったのです。何とか研修が終了したものの、これから試験を迎える状況で指導医を無くし困っていたところ、横浜市立大学附属市民総合医療センターの海老名俊明先生がその後の各種対応を快く引き受けて下さいました。また、研修や試験を通して自身の研修の不足点や自施設の検査部の問題点等が見えてきた中、院内には指導者がなく悩んでいたところ、他の大学病院や複数の市中病院、検査センターの臨床検査専門医の先生方が、快く相談に乗ってくださり、検査部の見学をさせて頂きました。おかげで、自分の病院の事だけではなく、様々な施設のそれぞれに合った検査部の仕組みや検査医の業務について知る事ができ、期待していた以上に多くの学びがありました。

お伝えしたいと思った事は、色々教えて下さった多くの臨床検査専門医の先生方への感謝と共に、困った時、分からない事があった時に、本当に多くの臨床検査専門医の先生方が快く助けて下さったということです。

自分はまだ、検査専門医になっただけで、試行錯誤の日々ですが、これだけ多くの臨床検査専門医の先生に助けられましたので、今後、機会があれば、自分もお役に立てればと思っています。ちなみに、私は血液検査と微生物検査を中心に業務を行っておりますが、現所属の横浜市立大学附属病院の臨床検査部は超音波指導医が消化器1名、循環器1名の計2名おり、超音波検査については強みがあると思います。

色々な病院、施設で学ばせていただき、それぞれの検査部に合わせた運用や良い面、強みを勉強させて頂きました。これから、まだまだ、学びながら働いていきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

【編集後記】

JACLAP NEWSの編集主幹を、2020年の第135号より五十嵐岳先生から引き継ぎ、約5年間務めさせて頂きました。これまでご執筆いただいた先生方には、心より感謝申し上げます。今後もJACLAP NEWSのさらなる発展に貢献できればと願っております。

(東海大学医学部臨床検査学 後藤 和人)

一般社団法人 日本臨床検査専門医会

理事長：谷直人、副理事長：山田俊幸

常任理事：村上正巳(庶務)、増田亜希子(会計)、田部陽子(資格審査・規定改定委員会委員長)、幸村 近(渉外委員会委員長)、

福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、松下一之(保険点数・データシステム委員会委員長)、尾崎 敬(広報・ネットワーク運営委員会委員長)、

鯉淵晴美(教育研修委員会委員長)

理事：藤井 聡、植木重治、浅井さとみ、山田鉄也、山崎正晴、北中 明、橋口照人

監事：東條尚子、菊池春人

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委員：出居真由美、井上暢子、後藤和人、吉田 博、金子 誠

一般社団法人 日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL: 03-3864-0804 FAX: 03-5823-4110 E-mail: senmon-i@jaclap.org